



NPO法人 マグノリアの灯

発表者: 橋本京子

●設立のきっかけ

- 東日本大震災、福島第一原発の放射能事故は、私たちの生き方そのものに問いを投げかけ、その結果原子力に頼らない生活を模索する様々な取り組みが生まれました。私たちのNPO法人マグノリアの灯(2013年9月認可)もそうした流れの必然性から生まれてきています。思いを同じにするグループと歩調を合わせると同時に、私たちオリジナルの活動をご紹介しますことで、互いに交流し、健やかな未来のために役立ちたいと考えています。



ムーア・ラベンダー・オイル
WALA社が日本に寄付してくださった
泥炭を素材にしたオイル(化粧品)で、
ラヴェンダーの優しい香りが心も体も
包み込んでくれます。

●団体の目的

- この法人は、東日本大震災、原発事故による放射能汚染に対して、環境の改善、人々の健康増進に関する事業を、地球規模の視座、長期的な展望を持って継続的に行い、人類の進歩、発展に寄与することを目的としています。
- 中でも子どもの健全育成を図る活動として、ホリスティックなコミュニティを創造していくことを特徴としています。

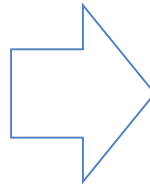
※ホリスティックとは、「全体的」の意味で、老若男女や地域・自然との絆を大切にする考え方のことです。



私たちの思い、考え

▶地域の課題

- 原発事故による放射性物質による大地の汚染
- 福島の野菜は食べない
- 放射能汚染による健康被害に対する不安
- 放射能汚染問題以前からある地域課題
- 耕作放棄地
- 農業の後継者不足



▶目指す地域の姿

- 福島で農業を
- 「福島の野菜は食べない」という人たちがいまだに多い中、福島の地で、安全かつ美味しい野菜づくりをしていくことは、大きな意味があります。確かな農業技術に、優れた放射能対策で、震災以前よりも良い状況をつくることを私たちは目指しています。



活動紹介

■ 第2木曜日17:00～21:00マグノリア勉強会

■ 年4回特別講座

- 司祭と医師の講座
- 農業講座
- お月見お茶会
- バイオダイナミック農業対談

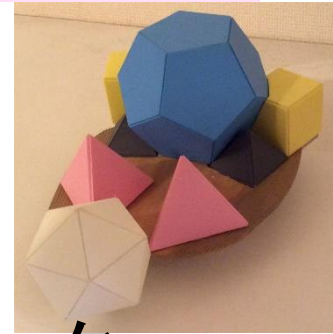


■ 無料医療相談

■ 建築法の研究

■ バイオダイナミック
農法の研究・実践

■ 薬草の研究・開発
へ向けた準備



地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

- 農業に関して無知ですが、自然、宇宙の中に存在する自分(人間)の認識について深く考えさせられました。農業に限らず、自分と自然の関係を俯瞰することが大切だと思っています。
- 建築家さんの話は、驚きと共に良い学びをさせてもらいました。漆喰のこと、珪藻土の壁の事実、ある意味ショックを受けました。
- 改めて水の大切さに驚きました。
- 農業者の実体験に裏打ちされた話と、講師のバイオダイナミック農法の知識と両方が聴けて良かった。
- 畑見学から対談まで、いい企画でした。農に加えて建築の視点からケイ素やカルシウムの話が聴けて楽しかった。



ソーラムオイル

WALA社がつくる泥炭素材のオイル(医薬品)で、リウマチや癌などの疼痛緩和に用いられ、光のオイルとも言われています



協働に向けて

活動・組織での悩み
困っていること

- 将来的には、自前で講座開催を目指す。
- 現段階としては、各々が研究段階のため、当面外部講師を招いた講座を開催する。
- そのため、講師への謝礼や交通費等の経費が不足気味。

企業と協働したいこと、
サポートしてほしいこと

- 県内で農業を営んでこられた方の参加を促したいので、講座参加費の負担を減らしたい。
- そのため、講座開催諸経費（交通費、謝礼等）にあてる資金の提供をお願いします。

企業に向けてメッセージ



- 「土地は先祖からの授かりものではなく、子ども達からの預かりもの」
- 「なにを為すのであれ、今から7世代後の子供たちの影響を考慮して行わなくてはならない」
(※ネイティブ・アメリカンの言葉より)
- 原発事故後、目先の利益重視の意識が変わりました。医食住の視点から、子ども達の未来に残せるコミュニティーを創造していきたいと考えています。

